

# 次号予告

2017年11月号

## 特集

### 在宅現場の「暴力」の問題

2015年度の神戸市看護大学などの調査により、「利用者やその家族から暴力を受けた」という訪問看護師は少なくないことが明らかになりました。「訪問看護師の安全・安心を守る。それが家で暮らしたい方々の幸せを守ることに」という前提に立てば、何か対策を講じる必要があるのではないのでしょうか。次号は、これまで調査が少なかったがゆえに判然としなかった被害の実態の調査報告をはじめ、この問題を考えるための材料を提示します。

#### 「暴力」に取り組まざるを得なくなった日からの歩み

●藤田愛

#### 調査報告「訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力の実態」●林千冬

#### 介護現場のケアハラスメント●篠崎良勝

#### 被害を受けた直後の対応と

#### 被害にあった同僚・部下への対応●三木明子

## 【コラム】

「暴力」の問題と向き合って——訪問看護・訪問介護の立場から●山崎和代・遠藤理恵・徳山聡美

「サービスを拒む」ことをどう考えるか●尾内康彦

在宅ケアの場の「暴力」。私はこう考える

●佐藤美穂子・石田昌宏・清崎由美子

## 巻頭 地域包括ケアのまちを歩く

### シェア金沢・三草二木行善寺・三草二木西園寺

(石川県金沢市)

山崎亮・雄谷良成・西川英治

※一部変更となることがあります。

訪問看護と介護 第22巻 第10号(通巻256号) 2017年10月15日発行(毎月1回15日発行)

発行:株式会社医学書院 代表者:金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2017, Printed in Japan

1部定価:本体1,400円+税 年間購読料(税抜,送料弊社負担,年間12冊):12,600円(冊子版)/

15,600円(冊子+電子版/個人)/12,600円(電子版/個人)

販売部:☎03-3817-5659 社内案内:☎03-3817-5600

『訪問看護と介護』編集室:☎03-3817-5787 FAX03-5804-0485 担当:小池・栗原・横田・早田

✉houmon@igaku-shoin.co.jp Twitter @houmonkango

医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp/> ウェブマガジン『かんかん!』 <http://www.igs-kankan.com>

本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写,スキャン,デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。

大学,病院,診療所,企業などにおいて,業務上使用する目的(診療,研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは,その使用範囲が内部的であっても,私的使用には該当せず,違法です。また私的使用に該当する場合であっても,代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

【JCOPY】《出版者著作権管理機構委託出版物》

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は,そのつど事前に出版者著作権管理機構

(☎03-3513-6969, FAX03-3513-6979, ✉info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

※「訪問看護と介護」は,株式会社医学書院の登録商標です。

## 編集後記

共働き家庭なら必ず(?)問題になる家事分担。わが家でもしばしばケンカの火種になっていました。そこで挑戦してみたのが「家事の見える化」。それぞれ自分がやっている家事を項目ごとに書き出し、タイミングや必要時間を追記する……とやっていくうちに、いつのまにかケンカは終了。というのも、相手がやっていることが見えてきて、自分がやっていることを伝えられただけで、なんだかすっきりしたのです。結果よりプロセスから学ぶことが多いというのは、こういうことなのだ実感しました。結局、分担は何も変わっておらず、不満がないわけではないですが、ゆっくり最適解を探していけばいいやという気持ちになっています。…栗原

巻頭「認知行動療法」企画、悩みの根っこが明らかになるプロセスに唖ってしまう面白さがありました。相談者・安田さんから後日談のメールも。「平穏な日が来た(パチパチ)。とはいかず……さらに強力な患者さんと格闘してます。でも、キーンと声に出ることはなくなりました」とのことで、手応えを感じているよう。なお、メールに「患者さんを見ていなかった」と反省しているとも綴られていたのですが、それが優先できなかったほどにストレス状況下にあったのかもかもしれません。いずれにせよ、現場で働く人の心身が健やかな状態になれば、いいケアも生まれやすいと思うのです。さて、次号も同様の思いに端を発した、問題提起型の特集です。…小池